

(別紙 12)

大学「人材育成強化科目」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	上山市役所
実習期間	令和 元年 8月 19日 ~ 令和 元年 8月 23日
学生氏名	村山 大河
実習プログラム	8月19日（月） 午前 ・市の重要事業についての説明 ・市の観光施策がどのようにおこなわれているか等 ・かみののやまワインについてのプロジェクト説明 午後 ・実習先の部署である子ども子育て課の説明 ・市役所内の見学 ・保育料算定業務 8月20日（火） 午前 ・保育園での野菜もぎ取り体験への同行 午後 ・地域ケア会議への参加 ・保育料算定業務 8月21日（水） 午前 ・蔵王でのクアオルト体験 午後 ・上山市内散策 8月22日（木） 午前 ・児童福祉施設の巡回 午後 ・保育料算定業務 8月23日（金） 午前 ・保育施設周辺の危険場所の確認 ・高校でのタウンミーティング発表の講評 午後

	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩職員との語り ・まとめ
<p>学び・気づき (300字程度)</p>	<p>私が実習をおこなった子ども子育て課では、主に園児・結婚支援についておこなっている。今回の実習プログラム内では、事務作業である保育料算定業務を体験した。保育料算定業務とは、所得によって違う保育料の免除後の金額を確認するというものである。この業務を体験してみて、個人情報を扱う重要ささらに、ミスがあれば市民に対してお金の面で負担がかかる。さらに、その責任は行政ということ、作業を通して実感した。</p> <p>クアオルト体験では、実際に私達でクアオルトコースを歩き自然や参加者の皆様と触れ合うことができた。</p> <p>今回実習プログラムに、実際に支援を必要としている場所におもむき、実際に目でみて判断していかなければ行政としての業務ができないということ学ぶことができた。</p>
<p>今後に向けた 抱負 (200字程度)</p>	<p>野菜もぎ取り体験での、保育園児に野菜もぎ取り体験の目的達成のためにサポートに徹していたが、保育園児に対してサポートをおこなうタイミングや方法がわからずに戸惑ってしまった場面については、現場の判断力や協働能力等が課題と考える。この課題については、多くの場所へ行き経験を積むことや周囲を見て判断を行い行動しなければならない。そのために、様々なイベント等に参加し主体的に判断し行動していかなければならないと考える。</p>
<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>5日間上山市役所子ども子育て課での実習プログラムをこなしていく中で、デスクワークの事務作業や実際に現場へ足を運び、子ども達との野菜もぎ取り体験や保育施設の巡回等の地域の方達と深く関わる部分が多くあり、繋がりを持てる地域性というのが魅力だと感じた。さらに、先輩職員との対話を経て、部署によっては生活保護等の担当している方の生活に直接関わっている部分をこなしていく。そのために、責任があるが、生活保護が必要になくなった場合などの達成感ややりがいなどを感じることができるのも魅力だといえる。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	